

平成29年度事業報告書

1. 事業の状況

当法人は、愛知県内の大学で独創的な研究を行う者に対し助成を行い、もって我が国の学術の振興に寄与することを目的とし、この目的を達成するために研究者への助成金の支出ならびに研究者の海外派遣を事業として行うものである。

平成29年度（第34回）の助成事業については、平成29年4月に愛知県内の各大学に助成者の推薦を依頼した。

その後、平成29年6月30日に助成候補者の推薦を締切り、各専門分野ごとに選考委員による審査を9月初旬に終え、9月25日開催の理事会における最終決議を経て、11月27日に当財団事務所にて助成者59名の内40名を招いて助成金総額3,820万円を贈呈した。

部門ごとの助成金受領者と助成金額は次のとおりである。

第34回 (平成29年度) 助成者一覧表

1・研究助成

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	1	ヤマグチ ヒロキ	名古屋大学 大学院工学研究科 マイクロ・ナノ機械工学専攻 准教授	分子流体力学	流路壁面の温度勾配が駆動する流れの特性解明	マイクロ・ナノ領域の熱流動場の様な高クヌッセン数環境下において、流路壁面に存在する温度勾配によって誘起される熱匍流が、流路形状や温度分布によって受ける影響を、熱流動場内部の温度や圧力の分布計測を行うことによって調査し、熱匍流が持つ特性を明らかにしていく。
		山口 浩樹				
	2	ナカムラ トモアキ	名古屋大学大学院工学研究科 土木工学専攻 准教授	海洋工学	海浜内部の不飽和状態のモデル化手法の提案とそれを組み込んだ 海岸構造物の耐波安定性の評価技術の開発	海岸工学分野で一般的に使われている数値計算モデルに適用可能な不飽和状態のモデル化手法を提案する。 また、その手法を申請者が独自に開発・改良を進めている数値計算モデルに組み込む。そして、そのモデルを津波による海岸堤防の洗掘現象へ適用し、不飽和状態が取り扱えなかった従来モデルとの差を明らかにするとともに、提案した不飽和状態のモデル化手法とそれを組み込んだ数値計算モデルの妥当性を示し、同モデルのさらなる実用化を目指す。
		中村 友昭				
	3	カワサキ アキラ	名古屋大学大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 助教	航空宇宙工学	デトネーション燃焼を応用した小型・高性能な二元推進剤 ロケットエンジンの開発	デトネーションという燃焼現象に関して、流路スケールをパラメータに燃焼の安定維持条件を明らかにする。その際には、流路スケール可変実験装置と高速ビデオカメラを用いた可視化実験、ならびに、数値シミュレーションを手段とする。以上をもって、二元推進剤ロケットエンジンを、高性能を維持しつつも小型衛星に搭載可能なスケールまで小型化することを目指す。
		川崎 央				
	4	カトウ シンヤ	名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻 助教	電子デバイス、ナノ材料	シリコンナノ粒子を用いた結晶シリコン太陽電池へのドーピング層の 形成	本研究はシリコンナノ粒子を結晶シリコン太陽電池のエミッタ層及びバックサーフェイスフィールド層への応用し、低コストの新規プロセスを確立する。変換効率の向上に向けて、シリコンナノ粒子膜のプレス法による高密度化と水素化による欠陥の低減による膜の高品質化を行う。
		加藤 慎也				
	5	ナカムラ マサノリ	名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻 教授	生体機械工学、流体力学、計算力学	がん細胞の力学的特性に着目したがん転移悪性度評価技術の開発	がんは原発巣から血中に入り、血管壁に接着した後、血管外へと脱出して他臓器へと転移する。本研究では、転移プロセスの内、内行輸送と浸潤の2つに着目し、これらにおけるがん細胞の力学的性質の重要性について明らかにする。微小模擬血管にがん細胞を流動させ、血流中のがん細胞挙動を調べるとともに、転移悪性度と変形特性との関係を明らかにする。また、細胞が大変形するほどの狭小な隙間を通じた後の増殖性を調べ、がん細胞の柔軟性が増殖能に与える影響を調べる。最後に、がん細胞のどの構成器官の硬化が転移・浸潤を抑制するかを明らかにする。
		中村 匡徳				
	6	ヤマダ アキラ	愛知工業大学 工学部 機械学科 准教授	生体工学	半導体イオンセンサ ISFET と微小流体デバイスを用いた新原理 pH測定システムの開発	半導体イオンセンサISFETと微小流体デバイスを組み合わせることによって、従来のガラス電極法によるpH測定の問題点であった、電極サイズの大きさに伴うサンプル消費量を低減し、測定の応答性を高めることによって、測定の時間短縮と精度を向上した新しい測定システムの構築を目指す。
		山田 章				
	7	スズキ サトシ	愛知工業大学 工学部 建築学科 講師	耐震工学	幾何学的非線形を考慮した座屈安定性理論による高性能な免震 構造用積層ゴム支承の開発および木造戸建て住宅に適用可能な 免震構造システムの開発	幾何学的非線形を考慮した曲げ一せん断座屈モデル(東京都市大学 西村教授 2005年)を用いて解析的に検討した積層ゴム支承について、美大の試験体を製作し、静的載荷実験により力学特性を把握する。また、解析モデルの妥当性を検証する。解析した積層ゴム支承は、木造住宅のような軽量構造物を免震化する際に用いることを想定して水平変形性能と固有周期を設定した、プロトタイプの積層ゴム支承である。
		鈴木 敏志				
8	クラハシ ススム	愛知工業大学 工学部 土木工学科 講師	地震工学 特に震源のモデル化および 強震動予測	内陸地震における長周期地震動含めた広帯域地震動予測手法の 開発	これまでに発生した2014年長野県北部地震、2016年熊本地震など、地表付近まで断層破壊が進展したと考えられている被害地震の観測記録から、震源から生成される長周期地震動および短周期地震動を含めた広帯域地震動の生成メカニズムを解明し、建物倒壊や人的被害の想定に利用される地震動の予測手法の開発を目指す。	
	倉橋 奨					
9	フジタ ノリフミ	名城大学 理工学部 准教授	超分子化学・高分子化学	誘起適合型比色不斉分子認識系の構築	不斉分子のキラリティー情報を正確にかつ定量的に見極めることは、生理活性物質の構造推定や薬理作用活性、材料物性を見積もる上で必須事項であり、医・薬・農学や食品・香料科学・材料科学における重要な課題である。不斉分子の比色認識は、溶液中における分子認識と色素を運動させ実現した系が知られているが、これらは対象物質ごとに精密な分子デザインが必要である。ある種の酵素は、接近する基質にあわせて柔軟にその形を変化させ(誘起適合)、複数種の基質を触媒することが知られている。本研究はこの現象を応用し、柔軟性に富む不斉分子認識空間の構築に取り組み、多くの不斉分子をごく少数の分子でカバーする誘起適合型比色不斉分子認識系の構築をめざす。	
	藤田 典史					
10	マスタ タイスケ	名城大学 理工学部 電気電子工学科 准教授	電力系統工学	燃料費変動を考慮した将来の電力系統需給運用手法の開発と評価	太陽光発電が大量に導入された将来の電力系統について燃料費変動が与える影響を考慮した需給運用手法を開発し、高速計算機システムを用いた数値シミュレーション評価を行って、その有効性を明らかにする。	
	益田 泰輔					
11	イシヤマ ヒロキ	中部大学 工学部 建築学科 准教授	建築構法	硬化土と竹を用いた建築構法の開発のための基礎的検討	発展途上国において容易、安価に入手可能な材料である土と竹を用いた曲げ部材開発のため、酸化マグネシウムを利用した硬化土と竹の基礎的物性を検証し、最適な構法を提案する。また、現地における適用可能性を探るため、材料の物流や道具、技術の水準を調査する。	
	石山 央樹					
12	ニシカワラ マサヒト	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 機械工学系 助教	熱工学	ナノワイヤーによる機能性銅多孔体の創製	150 nm程度の銅ナノワイヤーを用いたナノ細孔、熱伝導率異方性を有する銅多孔体を製作する。ナノワイヤーによる接合界面の増加によって、表面層での純銅程度の熱伝導性と内部で低熱伝導性の異方性を発現する。従来の焼結法を適用した製作、新たに提案する溶媒による銅の溶解中にワイヤーを接合させる方法によって製作する。製作した銅多孔体を熱輸送素子であるルーブヒートパイプのウィック部に適用し、従来の10倍の輸送距離の実現を目指す。	
	西川 理仁					
13	ハラグチ ナオキ	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 環境・生命工学専攻 准教授	高分子化学、有機化学	不斉触媒能を有する単分散コア-コロナ型高分子ミクロスフェアによる環境調和型有機合成プロセスの開発	重合性官能基を表面に有する単分散高分子ミクロスフェアによるリビングラジカル重合により得られたコア-コロナ型高分子ミクロスフェアのクリック反応により、高い不斉触媒能および回収・再使用性を付与した単分散コア-コロナ型高分子ミクロスフェアの創製を行う。高分子構造と触媒性能ならびに回収・再使用性の相関関係を明らかにすると共に、高分子ミクロスフェア触媒を用いた環境調和型有機合成プロセスの実現を目指す。	
	原口 直樹					
14	ヤマダ サキ	愛知県立大学 大学院情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程	複合現実、医用画像情報処理、 医用システム	X線CT画像を用いた骨の複合特徴認識とインフォームド・コンセントへの応用	インフォームド・コンセントや手術支援では、患者固有の立体モデル造形などにおいて、解剖学的特徴を反映した骨領域の認識が重要である。そこで、本研究では、最初X線CT画像における骨領域の高精度認識に取り組み、患者固有の骨を精密に認識する。次に、解剖学的特徴に基づく骨上の様々な特徴の認識手法を開発する。そして、認識された骨および骨特徴を用い、3Dプリンティング技術と合わせたインフォームド・コンセントへの応用を目指す。	
	山田 早姫					

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
医学	15	サトウ カズヒデ 佐藤 和秀	名古屋大学高等研究院 名古屋大学医学部 呼吸器内科 S-YLC特任助教	臨床医学、腫瘍治療学、呼吸器内科学、分子イメージング、胸部腫瘍	光を用いた肺小細胞癌・大細胞癌に対する新規治療法とコンパニオン診断システムの開発と応用	【背景】肺がんはがんによる死因の第1位であり、死亡者数は増加している。肺がん全体の治癒率は20%以下と予後が極めて悪い疾患で、その対策が急務となっている。現在の治療は、手術ができない場合は、放射線治療、化学療法が主流だが、効果は大変限定的で、申請者は呼吸器内科医として臨床の現場で数々の壁にぶつかってきた。 【挑戦】小細胞肺がん(Small cell lung carcinoma: SCLC)の治療法は30年新規治療が無く、化学療法レジメンも固定されており、新規治療法がまたれている。30年の間、限られた治療法しか選択肢が無い現状を打破する。 【目標】小細胞肺がん(SCLC)と大細胞内分泌肺がん(large cell neuroendocrine carcinoma: LCNEC)に対する新規ターゲット治療法を開発する。新規治療法として確立できた場合は、肺がん治療のプレクスルーと成りうる。 【方法】次世代のがん治療として、がん細胞表面の抗原に特異的な抗体に近赤外線に反応するprobeであるフタロンアニンをつけ、局所的に近赤外線を当てる事で治療を行うNear-Infrared photoimmunotherapy (PIT)を見いだし、新規ターゲットとして近年報告されたDLL3 (delta-like 3)に注目し(Sci Transl Med. 2015 Aug 26;7(302):302ra136.)、新規近赤外光線免疫療法を開発する。
	16	イグチ ヨウヘイ 井口 洋平	名古屋大学 医学部附属病院 神経内科 医員	神経内科学(医学)	ALS/FTLD 病態の解明を目指した生体内 TDP-43/FUS ノックアウトニューロン特異的 polysome 解析、および ALS/FTLD の新規治療法開発	ALS/FTLD病態におけるニューロンの変性メカニズムをTDP-43/FUSノックアウトニューロン特異的polysome解析により解明し、ALS/FTLDの病態抑止用法開発を目指す。
	17	シムラ タカヤ 志村 貴也	名古屋市立大学 大学院医学研究科 消化器代謝内科学 講師	医学系研究	無侵襲尿中マイクロ RNA による大腸癌の早期診断法の開発	大腸癌を診断するためには内視鏡検査が必要であり、早期診断を可能とする低侵襲バイオマーカーはないため、本研究では、大腸癌症例ならびに健常者からの尿検体を網羅的に解析し、大腸癌症例で有意に上昇する尿中マイクロRNA(miRNA)を同定し、大腸癌早期診断のための尿中バイオマーカー診断パネルを構築する。
	18	カトウ シン 加藤 晋	名古屋市立大学 大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教	未熟児・新生児医学	羊水中の炎症性細胞外マトリクス分解産物測定と病原微生物の同定を組み合わせた、重症型慢性肺疾患の罹患予測と至適分娩時期の推定	本研究の対象は、在胎28週未満での出生を余儀なくされる超早産児である。研究方法は、超早産の可能性がある妊婦から診断治療目的に採取された羊水を用い、炎症性細胞外マトリクス(ECM)分解産物の測定にはHPLC-タンデムマス法を、病原微生物の同定にはnested PCR法を用いる。本研究の目的は、上記結果の組み合わせにより重症型慢性肺疾患の罹患を予測して至適分娩時期を推定し、出生後の慢性肺疾患の重症化を防ぎ、生涯にわたる児の生活の質(QOL)の向上に資することである。
	19	ヤママラ アヤ 山村 彩	愛知医科大学 医学部 生理学講座 助教	循環生理学	肺動脈内皮バリア機能の破綻による肺高血圧症の発症機構の解明	肺高血圧症は、持続的に肺動脈圧が上昇する進行性かつ難治性の血管疾患である。肺高血圧症分類の第1群であり、最も典型的な臨床像を示す肺動脈性肺高血圧症(難病指定)の発症機構は、未だに解明されていない。最近、我々は、肺動脈性肺高血圧症の病態形成を担う規Ca ²⁺ シグナル分子としてCa ²⁺ 感受性受容体を同定した。本研究では、肺動脈内皮バリア機能におけるCa ²⁺ 感受性受容体の役割を解析し、肺高血圧症の発症および病態機構の解明を目指す。
	20	カシオ マキコ 加塩 麻紀子	愛知医科大学 医学部 生理学講座 講師	生理学	体温センサー TRPM2チャネルと生体内エネルギー代謝の機能的連関を明らかにする	体温センサーTRPM2チャネル機能が、生体内エネルギー代謝に伴うNAD+濃度変化に伴い、ヒストンアセチル化を介したTRPM2発現のエピジェネティック制御、TRPM2タンパクのアセチル化翻訳後修飾およびNAD+を基質として産生されるTRPM2内因性リガンドによる機能調節と多階層に調節される可能性に注目し、その機能的連関を明らかにする。
	21	ヨシモト レイ 芳本 玲	藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 遺伝子発現機構学 助教	分子生物学	コーディングからノンコーディングを作るしくみの解明: 新たな遺伝子モジュレーター circRNA の核外輸送機構の謎に迫る	末端構造のない環状RNA(circRNA)は組織・発生段階特異的に発現しており、新たな創薬の標的として注目されている。circRNAの多くは細胞質に局在するがその局在機構は謎である。申請者はcircRNAが核から細胞質へ未知の機構によって輸送されることを明らかにしている。そこでcircRNA輸送複合体の分子実態の解明を目指す。
	22	サノ ヨシミ 佐野 祥美	藤田保健衛生大学 医学部 形成外科 小児矯正歯科 助教	機能系生理学	口唇口蓋裂児における表面筋電図を用いた口唇形成術後効果判定方法の確立	口唇口蓋裂治療において口唇形成術術後の形態的評価法は種々あるものの、吸嚥機能に関する客観的評価法は確立されていないのが現状である。本研究は片側性完全唇顎口蓋裂または片側性完全唇顎裂と診断された乳児を対象とし、口唇形成術前後の哺乳運動中の口輪筋表面筋電図を計測、唇裂による口輪筋の筋活動量の左右差、術後の経時的変化、口蓋裂の有無による差について検討を行う。また積分直移動曲線法を用いることで、「吸嚥サイクルの「動き」を定量的データ化およびビジュアル化し、治療効果判定および術後経過の客観的評価法として確立することを目的としている。
	23	サトウ(ボク)アイジ 佐藤(朴) 曾士	愛知学院大学 歯学部 麻酔学講座 講師	医学・歯学	口腔顔面領域の神経障害性疼痛に対する抑肝散の効果: 痛み受容タンパク質の発現に着目して	口腔顔面領域の神経障害性疼痛モデルラットを作成し、モデルラットに漢方薬(抑肝散)を投薬する。痛み受容に関わるタンパク質である“C-Fos陽性細胞”の三叉神経脊髄路核尾側亜核における発現動態が抑肝散の投与前後でいかに変化するかを解明し臨床応用することで、痛みに苦しむ多くの患者の新たな治療法を確立したい。

法学・経済・経営	24	タマイトシキ 玉井 寿樹	名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授	公共経済学	社会資本の維持管理と最適公共投資政策	社会資本の維持管理について動学的一般均衡モデルを用いて理論的に考察し、民間部門の関与も含めた最適な社会資本整備の在り方を示すとともに、理論モデルを基礎としたシミュレーションをもとに政策の実現可能性とその具体的枠組みの構築を目指す。
	25	ハヤツ ヒロタカ 早津 裕貴	名古屋大学大学院 法学研究科 特任講師	労働法学	公務部門における非典型雇用者を題材とした公務労働関係法の 日独比較法研究	公務と民間の境界の曖昧化や近似化が進行する一方で、公務員法と労働法は隔絶的に理解され、それによって、民間の非典型雇用者(派遣、パートタイム、有期雇用など)と同様の雇用問題(雇用の不安定や低賃金など)を生じながら、法的保障から排斥されている公務部門の非典型雇用者を題材に、日独の公務労働関係法の比較研究を通じ、あるべき法体系・解釈を提示するとともに、公務員法・労働法の横断的分析を行うことで、その基本原理の検証・再構築を目指す。
	26	オヤマ カエ 小山 佳枝				
部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
法学・経済・経営	27	アイウラ ヒロシ	南山大学 経済学部 准教授	地域経済学、医療経済学	医療のグローバル化が医療環境及び医療政策に与える影響分析	本研究は、医療の分野においてもグローバル化の流れが押し寄せてきている現状を踏まえ、医療のグローバル化の進展が各国の医療環境及び医療政策に与える影響について分析を行う。
		相浦 洋志				
	28	クボタ ユウイチ	南山大学 大学院ビジネス研究科 教授	管理会計	両利き経営のためのマネジメント・コントロール・パッケージに関する研究	本研究では、イノベーションの実現のためのマネジメント・コントロールを解明することを目的とする。なかでも、知の探索と活用の双方を志向する両利き経営に焦点をあて、それを実現する複数のマネジメント・コントロールの同時利用(パッケージ)の実態を解明すべく、経験的研究を行う。
		窪田 祐一				
	29	イワタ カズリ	愛知大学 経営学部 教授	人工知能、知能処理学、 ソフトウェア工学	人工知能を応用した組込みソフトウェア開発プロジェクトの工数・ エラー数予測モデル	組込みソフトウェア開発の工数・エラー数を各工程において予測するために、プロジェクトの実績データを分析する。そして、工数・エラー数の予測モデルを構築する。そのために、実績データを人工知能技術によりクラスタリングし、外れ値などを持つものを検出する。さらには類似のプロジェクトの共通性や特徴を導出してモデルの最適化をする。これらの手法を用いることで、従来組込みソフトウェア開発プロジェクトの工数・エラー数予測に適用されていた統計的手法よりも精度の高い予測が可能となるモデルの構築を図る。
		岩田 員典				
30	ハイバラ タクミ	愛知大学 経済学部 准教授	税制改革理論	税制中立に依存しない税制改革理論	対象: 途上国を対象とした小国開放経済及び先進国を対象とした大國開放経済 手段: 一般均衡分析 目的: 増収増と経済厚生の両方を向上する税制改革理論の構築	
	生原 匠					
31	オカダ ケンタロウ	愛知大学 法学部 法学科 准教授	政治学	カナダにおける市民の政治参加の枠組みの形成と発展に関する研究	カナダにおいては、市民の政治参加の枠組みとして、王立委員会というひろく旧英領諸国で見られる政治制度が存在し、幅広く活用されてきたことが知られている。本研究では、これらの制度においてどのように市民参加が制度化されてきたのかについて、いくつかの王立委員会の事例を中心に考察・分析を行うこととしたい。	
	岡田 健太郎					
32	ヒランマ タロウ	愛知淑徳大学 心理学部 心理学科 講師	社会心理学・社会的ネットワーク	組織内の多様性が組織のパフォーマンスを高めるプロセスの 日米比較: 社会的ネットワークの形成・維持の基盤にある モチベーションに着目した検討	組織内の多様性は、新たなアイデアの創出など組織のパフォーマンスを高める一方で、メンバー間の対人葛藤を引き起こす原因にもなる。本研究では、社会的ネットワークの形成・維持の基盤となるモチベーションに着目し、日米において大規模なWeb調査を実施し、日本文化に適合した多様性のあり方を実証的に解明する。	
	平島 太郎					
芸術	33	ナガイ テハル	愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン・工芸科 陶磁専攻 准教授	近代陶磁器デザイン史	日本の陶磁器産業近代化におけるドイツ窯業技術の移植と交流に関する研究	ドイツ化学工業研究所(Chemisch-Technische Versuchsanstalt)とH.A.ゼーゲル(Hermann August Seger)について、ゼーゲル著作集(Segers Gesammelte Schriften)1908)他ドイツ国内外に残る資料文献をもとに、その研究内容の検証と日本窯業技術者との接点及び交流について調査し、日本の陶磁器産業への影響を解明する。
		長井 千春				
	34	スガイ アサヒ	愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 博士後期課程	美術(絵画)	銀箔の腐食技法を応用した、新たな質感を伴う絵画表現の研究	本研究は、創作と理論を複合的に研究し、新たな視覚表現としての絵画の可能性を探索することを目的とする。創作研究では、銀箔とその腐食、油彩を用いた描画法による絵画を制作する。これまで独自に追求してきた銀箔の腐食技法をさらに発展させることで、新たな質感を伴う絵画を創り出す。理論研究では荒川修作・M.ギンズ著『意味のメカニズム』の共同研究を継続して行う。これは過去の優れた絵画作品を詳細に読み解きながら、視覚による伝達方法に法則性を求めようとする試みである。理論研究を通して、絵画の形成過程を理解し、そこで得た知見を自身の創作研究に応用する。
須貝 旭						
35	ハタ ヨウコ	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科 博士後期 音楽専攻	音楽学	キューバのポピュラー音楽に見られる「黒人性」、つまりアフリカ音楽との類似性に着目し、その系譜をたどる	キューバのポピュラー音楽(フォルクローレを含む)の主要なジャンル(トロヴァ、ルンバ、ソン、ヌエバ・トロヴァ、ティンバ、クバトン等)を対象とし、録音資料及び映像資料(市場やインターネット上に流通しているものだけでなく、フィールドワークによる資料収集を行う)を用いて採譜、楽曲分析を行い、アフリカ音楽との類似性(「黒人性」)を抽出するとともに、「黒人性」を軸に、キューバ音楽を歴史的にとらえることを目的としている。	
計	35					

2. 海外派遣助成

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	1	コヤマ タケン	名古屋大学 大学院工学研究科 応用物理学専攻 准教授	光物理学	単層グラフェンの超高速光学応答に関する研究	フランスで開催される国際会議 34th International Conference on the Physics of Semiconductors (ICPS2018) において研究発表を行い、ナノカーボンをはじめとする低次元物質に関する情報収集および意見交換を行う。
		小山 剛史				
	2	サハラ ナオト	名古屋大学 大学院工学研究科 有機・高分子化学専攻 博士後期課程	有機合成化学	次亜ヨウ素酸塩触媒を用いるカルボニル化合物の効率的 α -アジド化反応の開発	シンガポールで開催される国際会議「Singapore Japan Germany Trilateral Symposium on Precision Synthesis & Catalysis」で研究発表を行い、最先端の有機化学について情報収集および意見交換を行う。
		佐原 直登				
	3	タカハシ マモル	名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 博士後期課程	機械工学、流体工学	熱線流速計、冷線温度計、圧カプローブの複合による二次元乱流噴流の速度-温度-圧力同時計測	2018年にブラジル国で開催される国際会議THMT-18(Turbulence, Heat and Mass Transfer 2018)において研究成果を発表する。また、乱流熱輸送現象の実験、データ解析、および物理的機構に関する情報収集および意見交換を行う。
		高橋 護				
	4	イイダ オアキ	名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授	熱工学(機械工学)	数値シミュレーションによる非一様な安定密度成層下での乱れの拡散過程の解明	スリランカで開催される国際会議 ISTP28で研究発表を行い、熱工学の研究に関する情報収集および意見交換を行う。
		飯田 雄章				
	5	スズキ カズマ	名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻 博士後期課程	パワーエレクトロニクス分野	ソフトスイッチング技術を適用した絶縁型三相AC/DCコンバータの研究開発	2017年10月アメリカのオハイオ州シンシナティで開催される国際会議IEEE Energy Conversion Congress & Expo (ECCE)で研究発表を行い、絶縁型AC/DCコンバータや電力変換技術、パワーエレクトロニクス技術のこれからの動向における情報収集および意見交換を行う。
		鈴木 一馬				
	6	ナザリ アハマド ザイド	名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻 博士後期課程	機械工学	20方向シュリーレンカメラを用いた、ジェット構造の瞬間三次元密度分布の三次元CT(コンピュータ断層造影)計測	オーストラリアで開催される、燃焼に関するアジア太平洋国際会議で研究発表を行い、燃焼の多次元計測技術に関する情報収集および意見交換を行う。
		NAZARI AHMAD ZAID				
	7	エガミ ヤスヒロ	愛知工業大学 工学部 機械学科 教授	流体力学、航空宇宙工学	模型表面の圧力面分布の時系列データを20kHz以上で光学的かつ非侵襲に計測できる超高速高速応答感圧塗料(Pressure-Sensitive Paint: PSP)の開発及び特性評価	米国で開催される国際会議 アメリカ航空宇宙学会航空宇宙会議(AIAA Aerospace Sciences Meeting 2018)にて、研究発表を行い、圧塗料(PSP)などの光計測法の情報収集及び意見交換を行うため。
		江上 泰広				
8	ヤマモト ヨシユキ	愛知工業大学 工学部 土木工学科 准教授	土木工学	大規模空間情報の可視化	大規模空間情報の可視化技術において先進的な研究を進めているドイツ語圏のオーストリア、ドイツ、スイスにおける大学ならびに企業において、技術的なレクチャーならびに情報収集および意見交換を行う。	
	山本 義幸					
9	イマイ ダイチ	名城大学 理工学部 材料機能工学科 助教	半導体工学、半導体光物性、 光半導体デバイス	窒化物半導体 InN/GaN 短周期超格子による秩序 InGaIn混晶の光物性	カナダで開催される窒化物半導体の国際会議ISSLED2017で研究発表を行い、窒化物半導体のデバイスや物性評価についての情報収集、および意見交換を行う。	
	今井 大地					
10	ムラカミ ユウイチ	名城大学 理工学部 電気電子工学科 助教	高電圧工学	高電界パルス印加による水溶液中の微生物の選択殺菌システムの開発	メキシコ国で開催される国際会議 2018 IEEE Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomenon で研究発表を行い、研究テーマの分野であるハイオダイエレクトロニクスの情報収集および意見交換を行う。また、今後実施していく植物系絶縁油の研究の情報交換および意見交換も実施する。	
	村上 祐一					
11	オオシマ アキトシ	中部大学 工学部 准教授	宇宙線実験物理学	銀河宇宙線観測の宇宙天気研究への応用	国際共同実験GRAPES-3における活動として共同研究機関であるインド・タタ基礎研究所に滞在し、銀河宇宙線観測の宇宙天気研究への応用を目指す。	
	大嶋 晃敏					
12	ヒラヤマ タカユキ	中部大学 工学部 共通教育科	素粒子物理学	ブラックホール近傍におけるストリング(弦)の振る舞いから量子重力理論を探る	オランダ、ロッテルダム大学に所属する共同研究者との研究打ち合わせ	
	平山 貴之					
13	リチ ロアンチ	豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 博士課程	Organometallic chemistry, Synthetic Organic Chemistry, Asymmetric Synthesis	The Novel Cyclopropanation of Diazomethylphosphonate with N,N-Diethylaniline Catalyzed by a Chiral Ruthenium	Participate in '255th ACS National Meeting & Exposition' held in New Orleans, Louisiana, USA from 19th-23rd March, 2018. With the purposes: presenting the results via a poster, furthermore, I hope that I can learn some experiences on experiments as well as presentation skills, get some new information to make the new ideas, find the educational opportunities and network the peers.	
	LE THI LOAN CHI					
14	スズキ タクオ	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 講師	人間情報学(知能ロボティクス)	RGB-Dカメラとサーモカメラを併用した食事量推定技術、および同技術を活用した服薬管理支援システムの開発	台湾で開催される国際会議「2017 IEEE/SICE International Symposium on System Integration(IEEE SII2017)」にて研究発表を行い、複数のセンサーを統合したシステムに関する情報収集および意見交換を行う。	
	鈴木 拓央					

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
医学	15	エンドウ クニユキ	名古屋大学大学院 医学系研究科 総合医学専攻 脳神経病態制御学講座 博士課程	神経内科学: 神経変性疾患の基礎 科学的病態解明および治療法の 開発	FUSをノックダウンする組換えアデノウイルス関連ベクターを開発し、 モデルマウスを作成し、 前頭側頭型認知症の発症メカニズム を解明する。	アメリカ合衆国ワシントンDCで開催される国際会議 Neuroscience 2017(米国神経科学学会年次集会)で研究発表を行い、前頭側頭型認知症の 病態解明および治療法の開発に関する情報収集および意見交換を行う。特にワシントン大学では、Tau蛋白制御に関する研究が盛んであり、 研究者と交流を図りたいと考えている。
		遠藤 邦幸				
	16	ヨシダ マサヒト	名古屋市立大学 医学部 整形外科 助教	生体工学(Bioengineering)	未固定凍結屍体肩を用いた関節力学試験ロボットシステムによる 反復性肩関節脱臼における病態の力学的分析、およびその結果に 基づく手術方法の考案。	米国で開催される国際会議 American Shoulder and Elbow Surgeons (ASES) Annual Meeting 2017で研究発表を行い、肩関節の障害、疾病などに 関連する生体力学研究の情報収集および意見交換を行う。
		吉田 雅人				
	17	サカモト カズマサ	愛知医科大学大学院 医学研究科 博士課程	B型肝炎ウイルス	次世代シーケンサーを用いたB型肝炎ウイルス再活性化発症に 関連するウイルス側因子の解析	2017年9月に米国、ワシントンDCで開催される2017 International HBV meetingにおいて我々が解析したB型肝炎ウイルス再活性化発症に関連する ウイルス側因子に関する研究成果を発表する。本国際会議は世界中からB型肝炎ウイルスに関する著明な研究者が参加するため、他の研究者と 意見交換を行い最新の情報を取得する。
		坂本 和賢				
法学・ 経済・ 経営	18	オキ サヤカ	名古屋大学大学院 経済学研究科 教授	科学技術史、18世紀啓蒙思想史、 科学の経済史	初期近代フランスにおける科学研究の経済。特に最古の王立アカデ ミーの一つであるパリ科学アカデミー会計関連資料を調査し、近代 国家成立期における王権および革命政府の科学研究投資の美態と その思想的背景を検証する。	左記テーマの研究遂行のため、フランスの科学アカデミー古文書館(AAS)および国立古文書館(AN)で資料調査を行う。前者(AAS)については 革命期に会計担当であった化学者ラヴォワジエの草稿資料群への専門知識が必要 となるため、ラヴォワジエ草稿研究の第一人者である社会 科学高等研究院(EHESS)研究員Patrice Bret氏に情報提供を受ける。後者(AN)については分類番号F4に該当する膨大な未整理資料群が鍵と なるため、19世紀社会科学史研究の観点から同資料へのアクセスを試みたことがあるバンテオン=ソルボンヌ大学准教授 Julien G.R. Vincent 氏 に情報提供を受け、将来的な共同研究も視野に入れた意見交換を行う。
		隠岐 さや香				
	19	コンドウ ケンジ	中京大学 経済学部 教授	国際経済学	「観光開発か、外国人労働者受け入れか」 人口減少地域における望ましい経済振興策の探究	イタリア・パドヴァ大学のニコラ・コニーリョ先生と意見交換を行いながら、イタリアおよび日本における人口減少地域の情報収集を行い、研究テーマに 基づく共同研究を進める。
		近藤 健児				
	20	タカラダ ヤスヒロ	南山大学 経済学部 経済学科 教授	国際経済学、環境・自然資源経済学	各国で異なる製品の環境・安全基準の国際的調和が可能かどうか に関して理論的分析を行う。自国の環境・安全のために、各国は 独自の製品基準を設定しており、その差異が国際貿易の阻害要因 となりうることから、製品基準の国際的調和は政策的・学術的に 非常に重要な課題である。	カナダのUniversity of British Columbia (UBC)で開催される環境・資源経済学ワークショップで研究発表を行うとともに、UBCの研究者との意見交換 を通じて、研究成果をブラッシュアップする。また、UBCでの国際経済学のワークショップに参加して、最新の研究動向も調査して、論文の改善に 生かす。
		寶多 康弘				
21	マツイ ムネヤ	南山大学 経営学部 准教授	確率論・数理統計・計量経済学	新しい金融リスク管理へ向けた、GARCHモデルの開発とその理論的 性質の導出	コペンハーゲン大学(デンマーク)およびヴロツワフ大学(ポーランド)の研究者らとの共同研究、ならびに当該研究分野に関する情報収集および 意見交換を行う。	
	松井 宗也					
22	ヨシガキ ミノル	愛知大学 法学部 教授	法学	民事保全手続の紛争解決機能について検討する。保全命令による 救済範囲を解釈論によって拡張し、迅速な紛争解決制度の構築を 図ることを目的としている。予備的差止命令の研究をふまえ、仮制止 命令の手続について研究し、予備的差止命令によっては急迫の被害 に対応できない場合の迅速な紛争解決制度の構築を図る。	中華人民共和国で開催される国際学会International Association of Procedural Law(IAPL:国際訴訟法学会) 2017年天津大会に参加して民事 保全法(とくに仮処分手続)に関する情報収集および意見交換を行う。これに加えて、2018年にスペインで開催される国際学会International Association of Procedural Law(IAPL:国際訴訟法学会)にも参加し、民事保全法、組織関係訴訟に関する情報収集および意見交換を行う予定である。	
	吉垣 実					
芸術	23	イノウエ サツキ	愛知県立芸術大学 芸術創造センター長・ 音楽学部 教授	音楽学	フランスにおける病院での音楽アウトリーチ活動の研究	フランスにおける病院での音楽アウトリーチ活動について調査し、情報収集および関係者へのインタビュー等を行う。
		井上 さつき				
	24	シラキ アキラ	愛知県立芸術大学 美術学部 教授	芸術	ミャンマーにおける芸術文化・産業の拠点形成	ミャンマー国立文化芸術大学マンダレー校を起点に美術、デザイン、産業を含めたミャンマー国内での国際交流拠点の現地調査。現地で情報の 収集をおこない芸術文化、産業の国際的な研究交流の拠点を形成する。
白木 彰						
計	24					

2. 処務の概要

(1) 役員に関する事項

ア. 理事・監事

平成29年度末現在

役職名	氏名	就任年月日	現職
理事長	加藤時夫	平成10年 4月 1日	日東工業(株) 取締役会長
常務理事	中嶋正博	平成25年 6月 17日	日東工業(株) 取締役
理事	青木國雄	平成17年 9月 28日	名古屋大学 名誉教授
理事	川上 實	平成27年 9月 28日	愛知県立芸術大学 名誉教授
理事	後藤泰之	平成19年 9月 26日	愛知工業大学 学長
理事	清水哲太	平成19年 6月 28日	トヨタホーム(株) 顧問
理事	稲垣康善	平成29年 9月 25日	名古屋大学 名誉教授
監事	岩越 稔	平成 8年 4月 1日	元東海エヌ・ティ・ティ・データ通信システムズ(株) 代表取締役社長
監事	原田 稔	平成22年 4月 1日	日東工業(株) 元技監

イ. 評議員

平成29年度末現在

役職名	氏名	就任年月日	現職
評議員	二瓶浩明	平成28年 6月 1日	愛知県立芸術大学 教授
評議員	黒野 透	平成23年 9月 29日	日東工業(株) 取締役
評議員	山田基成	平成28年 6月 1日	名古屋大学 教授
評議員	大塚道男	平成27年 10月 13日	愛知県立芸術大学 教授
評議員	齊藤英彦	平成17年 9月 28日	名古屋大学 名誉教授
評議員	下山 宏	平成26年 1月 17日	名城大学 元学長
評議員	鈴木将文	平成24年 9月 14日	名古屋大学 教授
評議員	鈴置保雄	平成29年 10月 20日	名古屋大学 名誉教授
評議員	三宅養三	平成25年 9月 20日	愛知医科大学 理事長

(2) 職員に関する事項

事務業務は日東工業株式会社へ業務委託

(3) 役員会等に関する事項

ア. 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 6 月 23 日	議案 平成 28 年度事業報告、貸借対照表及び附属明細書、 正味財産増減計算書及び附属明細書、財産目録承認の件	原案通り可決
平成 29 年 9 月 25 日	議案 1 平成 29 年度助成者決定の件 議案 2 評議員選定委員会へ評議員候補者推薦の件 報告 1 平成 29 年度実績見込みについて 報告 2 平成 30 年度事業計画について	原案通り可決
平成 30 年 2 月 23 日	議案 平成 30 年度事業計画書および収支予算書の件	原案通り可決

イ. 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 6 月 16 日	議案 平成 28 年度貸借対照表及び附属明細書、正味財産増減 計算書及び附属明細書、財産目録承認の件	原案通り可決
平成 29 年 9 月 25 日	議案 1 平成 29 年度助成者決定の件 議案 2 理事選任の件 議案 3 議事録署名人選出の件 報告 1 平成 29 年度実績見込みについて 報告 2 平成 30 年度事業計画について	原案通り可決

ウ. 評議員選定委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 10 月 20 日	議案 評議員選出の件	原案通り可決

(4) 契約に関する事項

該当なし

(5) その他の重要事項

該当なし